リハビリテーション科

診療科長
山田　茂

専門医資格等　日本専門医機構整形外科専門医
日本整形外科学会運動器リハビリテーション医
京都大学　医学博士　京都大学医学部　臨床教授
専 門 分 野　運動器領域

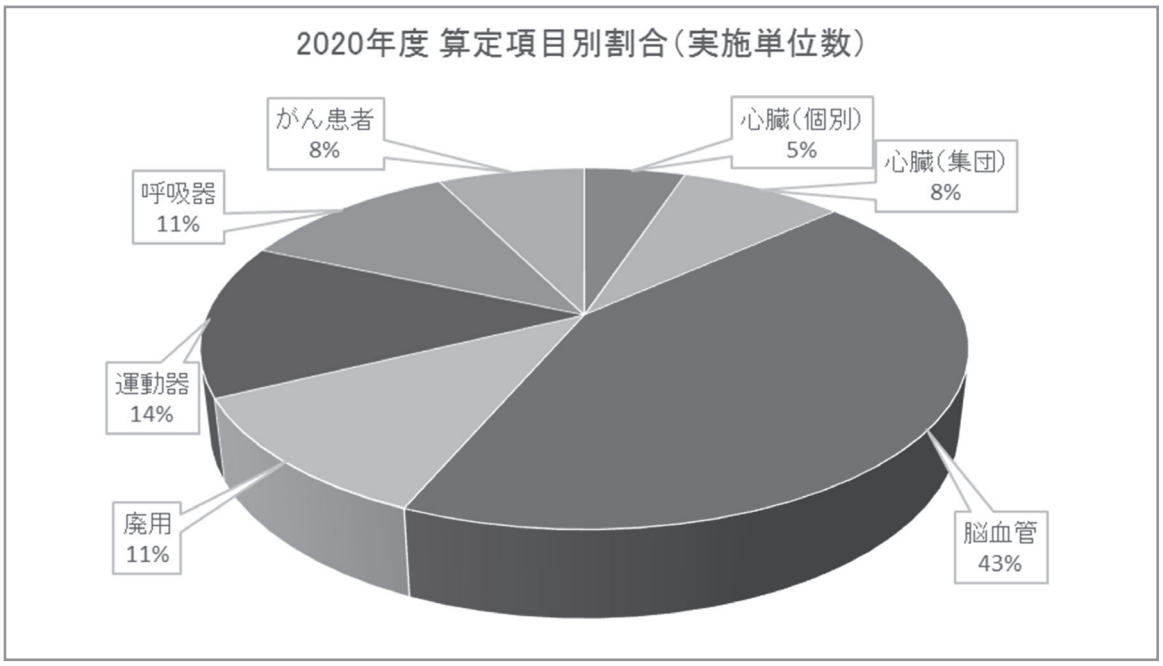
令和2年10月1日時点

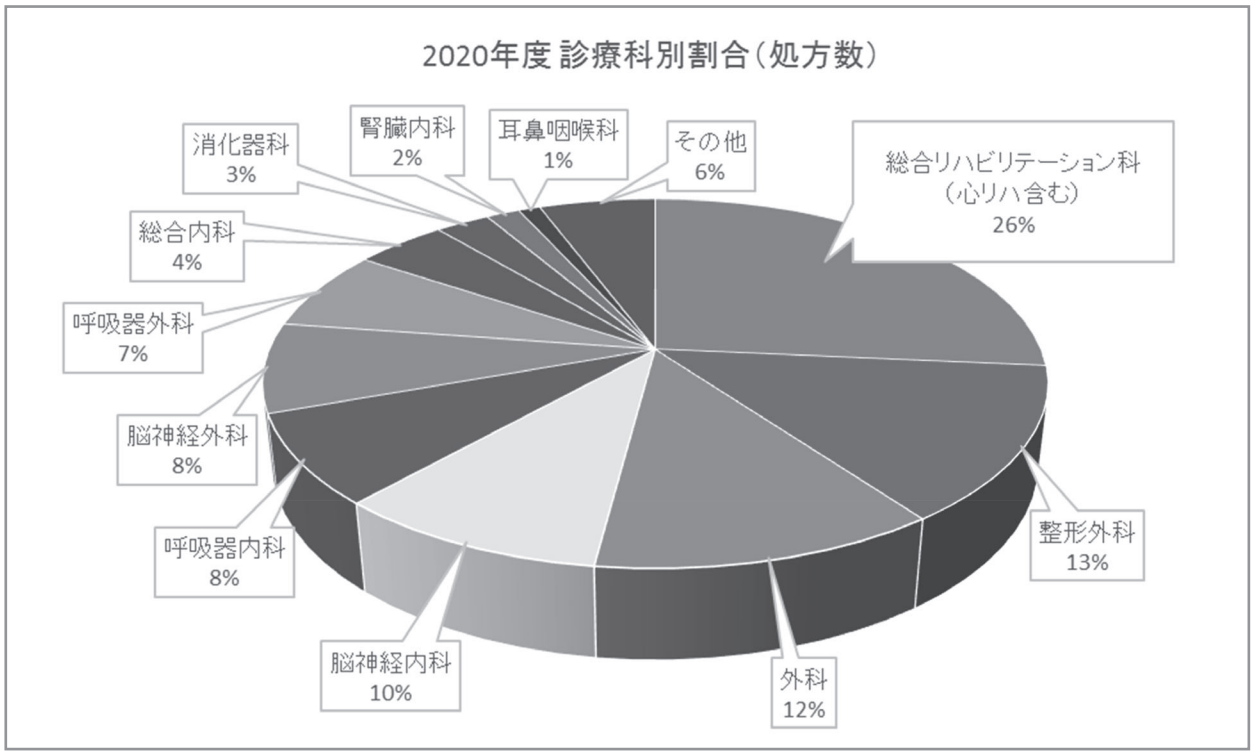
	氏名	専門医資格等
理学療法士長・近畿グループ理学療法専門職	上野　俊之	呼吸療法認定士、がんのリハビリテーション研修修了
副理学療法士長	仲山　卓志	がんのリハビリテーション研修修了
主任理学療法士	山原　純	心臓リハビリテーション指導士、がんのリハビリテーション研修修了日本理学療法士協会認定理学療法士（呼吸）
主任理学療法士	谷川　由実	心臓リハビリテーション指導士、がんのリハビリテーション研修修了
主任理学療法士	安田　夏盛	心臓リハビリテーション指導士、がんのリハビリテーション研修修了
主任理学療法士	今中　辰茂	心臓リハビリテーション指導士、呼吸療法認定士 日本理学療法士協会認定理学療法士（運動器）
理学療法士	渡邊　俊介	心臓リハビリテーション指導士、呼吸療法認定士、がんのリハビリテーション研修修了
理学療法士	橋本　明希子	呼吸療法認定士、がんのリハビリテーション研修修了
理学療法士	久保　美佳子	呼吸療法認定士、がんのリハビリテーション研修修了
理学療法士	岡崎　将人	がんのリハビリテーション研修修了
理学療法士	永山　ひろみ	呼吸療法認定士、がんのリハビリテーション研修修了
理学療法士	高田　芽依	
理学療法士	山上　晴暉	
主任作業療法士	峯　哲也	がんのリハビリテーション研修修了
作業療法士	森岡　良太	
作業療法士	河津　啓志	がんのリハビリテーション研修修了
作業療法士	本田　大貴	がんのリハビリテーション研修修了
作業療法士	髙橋　倫香	がんのリハビリテーション研修修了
作業療法士	藪下　裕輝	がんのリハビリテーション研修修了
作業療法士	廣尾　千晴	がんのリハビリテーション研修修了
言語聴覚士	森永　浩介	がんのリハビリテーション研修修了
言語聴覚士	小林　理絵	がんのリハビリテーション研修修了
言語聴覚士	奥村　真裕	がんのリハビリテーション研修修了
言語聴覚士	野田　響子	がんのリハビリテーション研修修了
言語聴覚士	加藤　利和	

非常勤理学療法士	池上 健太郎	がんのリハビリテーション研修修了
育児短時間（理学療法士）	廣野 さつき	がんのリハビリテーション研修修了
育児休業（理学療法士）	髙本 美菜	心臓リハビリテーション指導士、呼吸療法認定士、がんのリハビリテーション研修修了
育児休業（言語聴覚士）	梶田 梨紗子	がんのリハビリテーション研修修了
育児休業（言語聴覚士）	蓬臺 綾江	
非常勤事務助手（リハビリテーション科）	横田 美樹	

●科の特徴

・脳血管疾患、運動器疾患、呼吸器疾患、廃用症候群、がん等あらゆる疾患を治療対象として、質の高い理学療法、作業療法、言語聴覚療法の提供を目指しています。
・各診療科から直接処方を受けるシステムを導入し、入院時からの早期リハビリ介入を実践しています。
・休日リハビリ体制の充実を図り、可及的速やかな早期離床を実践しています。
・NST、 RST、排尿ケアチーム、褥瘡対策チーム、転倒転落予防チーム等のチーム医療に積極的に参加し、安全で高度な医療の提供に努めています。
・各科・病棟カンファレンスを通じて医師や多職種との連携・情報共有に取り組んでいます。
・COVID-19患者に対して、必要に応じて介入しています。
・新人教育マニュアルに則った職員教育をはじめ、各種研修会、勉強会を通じた人材育成を実践しています。
・施設基準：心大血管疾患リハビリテーション料〔Ⅰ〕
脳血管疾患等リハビリテーション料〔Ⅰ〕
廃用症候群リハビリテーション料〔Ⅰ〕
運動器リハビリテーション料〔Ⅰ〕
呼吸器リハビリテーション料〔Ⅰ〕
がん患者リハビリテーション料





●業務の内容

理学療法

・脳血管疾患、運動器疾患、呼吸器疾患、がん患者など幅広い疾患を対象に、運動療法や物理療法を用いて、起き上がる・座る・立ち上がる・歩くなどの基本的動作能力の改善に取り組んでいます。
・医師や看護師をはじめ多職種と連携をとったリスク管理のもと、ICU・HCU入棟中の患者を含め発症直後の早期から介入を開始しています。
・周術期の患者に対しては、術前から介入を開始し、術翌日よりスムーズな早期離床を目指しています。
・心不全、心筋梗塞、心臓外科術後、閉塞性動脈硬化症などの患者を対象に、症状に合わせてエルゴメータ、ドレッドミル、ニューステップなどの器具を用いた心臓リハビリテーションを実施しています。また、退院に向けて、運動、食事、服薬などの総合的な生活指導を行い円滑な社会復帰を目指しています。更に、退院後も必要に応じて外来心臓リハビリテーションを導入しています。
・小児科医と連携を取りながら、NICU入室患者へ介入しています。
・退院後の生活も念頭に置き、家屋の環境調整のアドバイスや在宅酸素導入の支援を含めた専門職としての関わりを通し、患者の生活の質の向上に努めています。

作業療法

・作業活動を用いて食事や更衣、トイレや入浴、家事動作など日常生活で必要となる能力の維持、改善を目指します。また、住環境に適した動作訓練および福祉機器などの調整をはかることで、患者の生活の質の向上を支援しています。
・脳血管疾患に対して、発症急性期より早期介入、早期離床に取り組み、機能回復を目指して主に上肢機能訓練を実施しています。
・運動器疾患に対して、術前の評価から介入。術後は早期より機能回復練習と日常生活で想定される動作の訓練や指導を実施しています。
・呼吸器疾患に対して、日常生活の動作の中で必要な酸素流量の評価と動作の指導を実施しています。また、在宅酸素療法を導入された場合には操作や管理の指導を行っています。

・がん患者に対して、多職種と連携し疼痛コントロールを図りながら生活の質の向上を目指し、個々のニーズに合わせた介入を行っています
・心疾患患者に対して、認知機能検査を実施。結果をもとに多部門と連携し本人または家族へ生活上の留意点の指導を行っています。
・手の外科に関して
　2018年より、整形外科・形成外科の医師と連携をとりながら手の手術後の患者に対し手指機能訓練を実施しています。

言語聴覚療法

・脳血管疾患や神経筋疾患、がん（舌、口腔底、咽頭など）などの発声発語機能、言語機能、高次脳機能、摂食嚥下機能などに障害のある方に対して、言語聴覚士が検査・訓練および指導などの専門的な関わりにより、機能の改善と生活の質の向上を支援しています。
・コミュニケーション機能の障害に対して、発症急性期から構音訓練、音声訓練、失語症訓練を実施しています。
・摂食嚥下機能の障害に対して、直接的嚥下訓練、間接的嚥下訓練、口腔ケアなどを用いて機能改善を目指します。
・記憶や高次脳機能に問題を抱えた患者に対し評価、訓練を実施しています。

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

分類 (国際学会もしくは国内学会)	発表学会	演題名 等	演者（当院）	開催地	発表年月日
国内学会発表	第54回日本作業療法学会	重症化した皮膚筋炎患者に対する食事動作への関わり	藪下 裕輝, 峯 哲也	新潟 （オンライン開催）	2020/9/25 ～ 2020/10/25